



第 296 号 (令和5年(2023 年)3月 29 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ  
特別隊員

## 島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

**3 月 23 日気象庁は浅間山に火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表**  
浅間山では、山体の西側の膨張を示すと考えられる傾斜変動が認められ、火山性地震が増加しています。今後、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので警戒してください。

**賽の河原分岐から前掛山までの登山道は規制区域のため、登山できません。**

[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity\\_info/306.html#kaisetsu](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/306.html#kaisetsu)

天気・防災情報 <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

信州 山のグレーディング <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/gure-dexingu.html>  
を確認し万全の準備で入山を！

### 長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

3 月 3 週県内では、八ヶ岳連峰で1件の道迷い遭難が発生しました。

県界尾根における道迷い遭難は、本年に入ってから2件目となり、2件ともほぼ同じ場所で発生しています。

尾根道は一見して歩きやすそうに見えますが、下りでは、尾根は谷に向かって小さく枝分かれしている箇所があるため、道に迷いやすいのが特徴です。また、尾根は常に真っ直ぐとは限らず、急角度で曲がったり、主稜線だと思っていた尾根が支尾根となっていることもあります。このようなところでは、登山者が迷い込んだ踏み跡に釣られて迷い込んでしまうこともあり、注意が必要です。

3 月 4 週県内では、2 件の遭難が発生し、うち 1 件はバックカントリーによる遭難でした。そのほか、遭難には至っていませんが、バックカントリーエリアを滑走中に道に迷い、一時的に行動不能となる事案も発生しています。

この時期のバックカントリーエリアは、融雪により軟らかい雪とアイスバーン状の硬い雪が混在しているほか、ルートが不明瞭となっている箇所があるため、滑走する技術だけではなく、リスクを回避しながら滑走する技術が求められます。

麓では徐々に気温が上昇し、高山でも積雪期から残雪期へと変わりますが、残雪期だからといって油断は禁物です。

残雪期は、周期的に天候が変わりやすいため、急激な気象変化に注意が必要です。また、一日の寒暖差が激しいため、雪の状態も変化しやすく、毎年アイスバーン状の雪面で滑落や転倒による遭難が発生しています。

登山を計画されている方は、様々なリスクを想定し、万全な準備と安全を優先した判断を心掛けましょう。入山前は、必ず天気予報を確認し、悪天候が予想される場合は中止する判断も必要です。

発生状況

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
3月17日	八ヶ岳連峰 赤岳	男	61	無事救出	道迷い	単独で美し森登山口に向けて県界尾根を下山中、道に迷い行動不能
<p>17日、単独で八ヶ岳連峰赤岳に入山した男性(61歳)が美し森登山口に向けて県界尾根を下山中に道に迷う山岳遭難が発生し、19日、県警ヘリが出動して発見・救助しました。</p>						
3月20日	八ヶ岳連峰 赤岳	男	57	負傷	転倒	単独で前日に宿泊中の山小屋付近でスリップし、転倒、負傷
<p>20日、単独で八ヶ岳連峰赤岳に入山した男性(57歳)が前日宿泊の山小屋付近において凍結した地面で足を滑らせ足を負傷する山岳遭難が発生し、諏訪地区山岳遭難防止対策協会救助隊が出動して県警ヘリで救助しました。</p>						
3月20日	北アルプス 八方尾根	男	47	負傷	滑落	単独でバックカントリーを滑走中、ルートを誤り、引き返すためスキー板を外し、稜線に向けて歩行中、スリップし、滑落、負傷
<p>20日、単独で北アルプス八方尾根北側斜面をバックカントリースキーで滑走中の男性(47歳)が、ルートを誤り、引き返すためスキー板を外し、稜線に向けて歩行中、スリップし、滑落、負傷して行動不能となる山岳遭難が発生し、県警ヘリが出動して救助しました。</p>						

令和5年(2023年)中の山岳遭難発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月26日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
令和5年(2023年)	46	6	2	23	23	54	31
内)単独登山	20	2	0	8	10	20	10
内)バックカントリー	15	3	2	6	9	20	11
令和4年(2022年)	37	6	0	16	24	46	22
前年同期比	+9	±0	+2	+7	-1	+8	+9
内)単独登山	+7	+1	±0	+5	+1	+7	+6
内)バックカントリー	-1	+1	+2	+1	-4	±0	+4

■山域別発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月26日)

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北アルプス	槍穂高	2	4.3%	0	0	1	1	2
	後立山	10	21.7%	2	2	7	3	14
	その他	4	8.7%	0	0	1	3	4
	計	16	34.8%	2	2	9	7	20
中央アルプス	1	2.2%	0	0	1	0	1	
南アルプス	1	2.2%	1	0	0	0	1	
八ヶ岳連峰	17	37.0%	2	0	9	9	20	
その他の山岳	11	23.9%	1	0	4	7	12	
計	46		6	2	23	23	54	

■態様別発生状況(令和5年(2023年)1月1日～3月26日)

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	14	30.4%	2	0	11	1	14
転倒	9	19.6%	0	0	9	0	9
病気	2	4.3%	0	0	0	2	2
道迷い	8	17.4%	0	0	0	9	9
落石	1	2.2%	1	0	0	0	1
雪崩	3	6.5%	3	0	2	1	6
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	4	8.7%	0	0	0	7	7
不明・他	5	10.9%	0	2	1	3	6
計	46		6	2	23	23	54

■男女別・年齢別比率(令和5年(2023年)1月1日～3月26日)

区分	男性					(人)	女性					(人)	男女計		
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率	
19歳以下	0	0	0	0	0	17 40.5%	0	0	0	0	0	4 33.3%	0	21 38.9%	
20代	0	0	2	1	3		0	0	0	1	1		0		4
30代	3	2	6	3	14		1	0	0	2	3		0		17
40代	1	0	3	4	8	16 38.1%	0	0	2	1	3	6 50.0%	11	22 40.7%	
50代	0	0	6	2	8		0	0	1	2	3		0		11
60代	0	0	0	5	5	9 21.4%	0	0	0	1	1	2 16.7%	6	11 20.4%	
70以上	1	0	2	1	4		0	0	1	0	1		0		5
計	5	2	19	16	42		1	0	4	7	12		54		
比率	77.8%						22.2%								

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

\* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp  
までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝